



- 『リハビリテーション病院長として思うこと』
～ リハビリテーション病院 ～ 病院長 三邊 武幸
- 『昭和大学藤が丘病院 副院長を拝命して』
～ 藤が丘病院 ～ 副院長 佐々木 春明
- 『消化器・一般外科教授就任のご挨拶』
～ 藤が丘病院 ～
消化器・一般外科教授・医長 田中 淳一
- 『昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院
看護部長に就任して』 看護部長 伊部 富士子
- 『ボランティア募集について』
- 『診療統計』2013年3月

『リハビリテーション病院長として思うこと』

—リハビリテーション病院— 病院長 三邊 武幸



私は、昭和47年昭和大学を卒業し、耳鼻咽喉科学教室に入り、同時に外科系大学院に進みました。耳鼻咽喉科岡本途也教授の指示で、昭和48年4月から福島県磐梯熱海にある大田熱海病院—大田総合病院に勤務しました。教授からは脳卒中の聞こえを調べなさいと言われました。当時の熱海病院は、700床の最先端のリハビリ専門病院でした。入院患者さんの大半が脳血管障害でした。毎日脳血管障害の患者さんの耳の検査をしたところ、脳血管障害のない人とは違う耳の聞こえがあることがわかり、そのことをまとめ「脳卒中に対する特殊聴力検査に判別関数を応用した診断学的意義」という論文を書きました。これが私の大学院の学位論文となりました。

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院は、本年6月1日で、創立23周年となります。初代院長黒木良克先生から始まり、森義明先生、筒井廣明先生、嶽山陽一先生の各院長の指導と教職員の努力下、専門性の高い現在の病院が出来ました。そして今年の6月で日本リハビリテーション医学会が発足して50周年を迎えます。その記念すべき学会を本学リハビリテーション医学講座の水間教授が主催します。医学会開催を経験して、本学リハビリテーション医学講座はさらなる自信と誇りを持って、医療を提供することができると思います。

この50年で、リハビリテーション医学は広く、深く成長してきました。そして、今後ますます拡大するでしょう。近年医療を取り巻く環境は大きく変化しています。

当院も時代の要請に即した変化と成長が、必要と思います。そのことがより良質な医療を、提供できると考えます。私たちは、そのために一層の努力をしたいと思います。



この度、2013年4月1日より昭和大学藤が丘病院の副院長を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

昭和大学医学部を卒業後、泌尿器科を専攻し昭和大学藤が丘病院に就職いたしました。そして2001年に昭和大学横浜市北部病院の開設と同時に昭和大学横浜市北部病院に勤務となりましたが、2006年7月に昭和大学藤が丘病院に異動となり、2008年5月より泌尿器科の診療責任者として診療にあたってまいりました。

医師不足と言われて久しいのですが、泌尿器科も御多分に漏れず医局員が少なく、入院患者の手術、化学療法、外来診療など多忙を極めております。しかし、幸いなことに昭和大学藤が丘病院の近隣には泌尿器科クリニックが数多くございます。2006年秋以降、泌尿器科クリニックの先生方と3か月に1度の症例検討会を行っております。病院機能とクリニックの機能が重複しないように、患者さんの状態を勘案して役割分担をお願いしております。また、泌尿器科以外の診療科の先生方からも多数の患者さんを御紹介いただいております、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。この泌尿器科以外の先生方との勉強会も6か月毎に開催させていただいております。

3か月毎の青葉区泌尿科の会は4月17日に第28回が開催され、また、6か月毎の藤が丘ウロロジーフォーラムは2月27日に第8回が開催されました。このように病診連携や病病連携を推進するために必要なことの第1は、顔が見える連携だと考えております。そのためには懇親を深める必要があると思ひ、定期的に勉強会を開催させていただいております。第2には、報告書の充実であります。御紹介いただきました患者様が今どのような状態なのか、つまり、これからどのような検査を行うのか、検査結果はどうだったのか、検査の結果に基づいて手術を予定したのか、治療の結果はどうだったのか、現在どのような治療を行っているのかなど、紹介元の先生方になるべく頻回に中間報告をさせていただくことを心がけております。御紹介くださいました先生が、患者さんから直接その内容を伺うのではなく、こちらから先生方に直接情報を提供させていただくことが重要と考えております。

地域医療連携は一方の流だけでは機能しません。双方向の流れがあることで連携がスムーズに機能すると考えて泌尿器科を運営してまいりました。

これからは、昭和大学藤が丘病院副院長として、病院全体で地域医療連携のさらなる充実を目指していきたいと考えておりますので、皆様の御支援・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

『消化器・一般外科教授就任のご挨拶』

一藤が丘病院一 消化器・一般外科教授・医長 田中 淳一



私は、この4月に歴史ある昭和大学藤が丘病院の消化器・一般外科に教授として赴任いたしました。患者様のお役にたてるよう精一杯、努力しますのでよろしくお願い申し上げます。

私は秋田県の出身で、秋田高校卒業後に東北大学に入学しました。杜の都仙台で大学生活を過ごし、専らボート部、スピードスケート部、スキー部で身体を鍛えておりました。卒業後地元の秋田大学医学部第一外科に入局しました。高橋俊雄教授、小山研二教授に師事し、肝臓、胆道、膵臓の手術や学生、研修医の教育を担当しておりました。途中、3年間は米国に留学し、基礎研究に没頭しておりましたが、留学中に現在私が専門としている腹腔鏡手術と出会いました。お腹を切らずに内視鏡のモニターTV下で行う同手術は、今ではあたりまえのように行われていますが、当時は最先端の手術であり、それを知った時の衝撃は今でも忘れられません。帰国してからは、その手術を導入し、積極的に取り組み、そして発展させてまいりました。私の転機となったのは2001年で、秋田からこの横浜に仕事場を移しました。都筑区に昭和大学の横浜市北部病院が創立され、消化器センター

長である工藤進英先生の推薦で、同センターの助教授として赴任することになったのです。それ以来、昭和大学の一員としてがむしゃらに過ごしてきたこの12年間は、正にあつという間でした。北部病院では大腸癌の腹腔橋手術を主に担当し、その数、質とも、わが国のトップランナーの一人になれたのではないかと自負しております。また、若手医師の教育にも力を注ぎ、北部病院の消化器センターの実績に貢献できたと考えております。今回、藤が丘病院の真田教授の定年および病院長専任に伴い、消化器外科の責任者としてお招きいただきました。今度は、この地で、今まで以上に診療および研究、若手の育成を目指したいと考えております。

私にはモットーがあります。それは“ミッション! パッション!! ハイテンション!!!”であります。果たせられた、もしくは自ら果たしたミッション(使命)を、パッション(熱意)を持って、しかもハイテンション(楽しく)で達成しようというものです。赴任してきてから、我が藤が丘病院のスタッフとも精力的にミーティングを重ね、田中イズムを浸透させようと努力している最中です。

私ども、消化器・一般外科では主に消化管悪性腫瘍(食道癌、胃癌、大腸癌など)、肝胆膵悪性腫瘍(肝臓癌、胆道癌、膵臓癌など)、乳癌の治療の他、消化器領域の急性疾患(腹膜炎、虫垂炎、腸閉塞など)など幅広く診療しております。私が当院に赴任して驚いたのは、緊急で対応している手術の多いことです。この地域に根付き、発展してきた藤が丘病院の外科の伝統に、新たに私の経験と技術、そしてパッションが加わることで、これまで以上に患者様に貢献できるようになると思います。

どうぞ、消化器・一般外科をよろしくお願ひ申し上げます。

『藤が丘病院・リハビリテーション病院看護部長に就任して』 看護部長 伊部 富士子



この度4月1日に藤が丘病院・リハビリテーション病院看護部長を拝命致しました伊部富士子と申します。

私は昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、そして昨年藤が丘病院・リハビリテーション病院に異動して今年で2年目になります。ここに参りまして特に地域密着型の急性期病院であることを痛感しています。現在医療環境の急激な変化により安全で質の高い医療や看護への関心とニーズの高まりを意識させられ、看護師は患者のニーズに対応できる高い看護実践能力を要求されています。昭和大学の「至誠一貫」の精神の下、藤が丘病院・リハビリテーション病院の理念は、まごころを尽くし 1.医療の質・安全の向上 2.患者本位の医療 3.地域への貢献 4.医療人の育成です。そして、基本方針は 1.大学病院として先進的医療を提供します。 2.説明と同意のもとに患者さんに最善の医療を提供します。 3.安心・安全な医療を提供すべく教職員を教育します。 4.病病・病診連携を推進し急性期医療に対応します。 5.信頼される人間性豊かな医療人を育成します。 6.病院職員が働きやすい環境整備に努力します。の6つです。これらを推進するために日々研修にいそしみ、各自の能力を高める努力を実施しています。

歴史ある藤が丘病院のハード面は古いですが、ソフト面では業務を停止せずに常に改築を進め進化しております。昨年ホスピタルローソン、10月には患者・家族の入退院における待ち時間のスペースとしてタリーズコーヒーがオープン、外来患者の受診待ち時間や受診終了後のひと時に喜ばれております。また、スタッフの憩いの時間にも活用され、昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院と同様に設置されたことで、スタッフはもちろん研修医・実習生に対しても心地よい実習場所の提供になっています。4月11日には3階フロアーの救急医療センターを近隣の施設の皆様にお披露目を実施され、医療提供における快適な機能面を紹介する事が出来ました。これからも大学病院としてチーム医療を推進し、医療人の育成と患者・家族に質の高い医療と看護を提供していきたいと思ひます。

看護師は特に患者に一番近く、一番長く接する存在であり、医療者との懸け橋を担う役割は大きいと思ひます。ハートフルをモットーに患者・家族の立場になって対応できる人材を育成していきます。看護部長としては第8代目になりますが、先代の作り上げて参りました役割に恥じない様に、病院長をはじめ事務部長、医療従事者の皆様と共にコミュニケーションを図り、患者・家族の皆様が安心して安全な医療・看護を提供して行きたいと思ひますので、ご支援とご協力を宜しくお願ひ致します。これからの藤が丘病院・リハビリテーション病院にご期待下さい。

昭和大学藤が丘病院、リハビリテーション病院では、ボランティア活動をいただける方を募集しております。

《活動内容》

- 外来部門(藤が丘病院・リハビリテーション病院)
外来部門で患者さんが困ることについてのお手伝い
(場所案内、問診票代筆、車椅子介助、親の受診時の子どもの見守り等)
- 小児病棟部門(藤が丘病院のみ)
遊び相手、学習援助、食事介助(声かけを含め)、イベントの参加等の活動
- ブックサービス部門(藤が丘病院のみ)
外来に常設してあるブックワゴンと病棟巡回用ブックワゴンの整理、補充、管理、病棟移動図書活動)
- 一般病棟部門(リハビリテーション病院のみ)
看護師の指導のもと、患者さんとのコミュニケーション活動



《初診受付におけるご案内の様子》

《活動曜日・時間》

- 活動曜日 月曜日～金曜日(平日)
- 活動時間 外来部門 9:00～11:30、小児病棟/一般病棟部門 10:00～17:00、ブックサービス部門 9:00～13:00
※その他ロビーコンサート等も随時調整しております。活動時間は、上記時間帯の中で、皆様のご都合のよいお時間に活動いただいております。

くわしくは、ボランティア係(代表：045-971-1151 よりボランティア係を呼び出し)へお尋ねください。

『診療統計』 2013年3月

	藤が丘病院	リハビリテーション病院
	3月	3月
外来患者数	32,158人 (1,286.3人)	5,014人 (200.6人)
入院患者数	15,102人 (487.2人)	5,327人 (171.8人)

2013年3月()内は1日平均

《編集後記》

春の訪れを感じる間もなく桜が散った一方で、日本国内は「円安、株価上昇」と景気のいいニュースが取り沙汰され、明るいニュースが耳に入るようになりました。しかし、国外を垣間見ると、隣国のミサイル発射予告や某マラソン大会でのテロ行為など心穏やかになりにくい情勢もまだなお続いております。

特に、感染対策面でいえば、季節性インフルエンザや感染性胃腸炎の流行期は過ぎましたが、中国の鳥インフルエンザ(H7N9)流行や国内の風疹流行が新たに発生し、気になるところです。

気を取り直して春を謳歌するつもりが、来るGWで足元を救われぬよう出先でも手洗い、うがい、マスクを着用し、これから咲く花々の香りを楽しみたいと考えております。皆様もお気をつけ下さい。 小野寺正則

《編集委員》

高橋 寛	吉村 吾志 夫
谷山 松雄	池田 裕 一
田口 清	高橋 良昌
堤 博志	大塚 幸彦
吉原 利栄	辻本 さなえ
有本 由布子	庄司 博
久保田 浩司	高橋 良治
小野寺 正則	
(順不同)	